

令和7年度高知県職業能力開発審議会 議事概要

1. 日 時 令和7年8月25日(月) 14:00～15:50
2. 場 所 高知共済会館 大ホール「桜」
3. 出席委員 宮澤昌裕 植田厚子 野島幸一郎 青木雄治 大西孝枝
白木政行 臼井裕喜 川上勲夫 川村進一 松木祥子 森山万里子
4. 議 事 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について【議事】
第12次高知県職業能力開発計画について【諮問】
県立高等技術学校のあり方について【その他】

5. 内 容

(1) 開会

(2) 高知県商工労働部長あいさつ

(3) 会長選出

委員の互選により会長に宮澤昌裕委員を選出。会長の指名により大井方子委員を職務代理者に指名。

(4) 議事 第11次高知県職業能力開発計画に基づく進捗状況について

○事務局から説明

○質疑意見なし

(5) 諮問 第12次高知県職業能力開発計画について

知事(高知県商工労働部長)より審議会へ第12次高知県職業能力開発計画について諮問

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

職業能力開発計画のターゲット(若者・在職者・学生等)を明確化する必要がある。国の基本計画に沿って計画を策定し、職業能力の開発に成功しても、その人材がストロー現象で都市部に吸い上げられては、何をしているのか分からなくなる。国の基本計画をメインに動いているようだが、もっと高知県の産業振興計画や元気な未来創造戦略を軸にして、労働者や若い人たちに高知県を発展させていこうというマインドを持たせる必要があると思う。

(事務局)

事務局としても、若い方々をメインターゲットにするとか、外国人材の方々が担い手

になってくれている現実を踏まえた重点的なリスクリングなど、現場からご意見いただいている内容を反映できるように計画策定に努めていきたいと考えている。

一方で、国の施策を踏まえて整理していく必要もあるので、全体の流れも考慮しながら高知県らしさを出せるようバランスを取っていきたいと考えている。

(事務局)

高知県らしさをどう出していくのかは大変重要な視点だと考えており、県独自の取組としてどう組み込んでいくのか、皆様の意見や日本全国の動きを踏まえて検討していきたい。

(6) その他(県立高等技術学校のあり方について)

○事務局から説明

○質疑意見など

(委員)

入校者が減っているのは理解できたが、例えば外国人材を含む在職者訓練の人数や活動内容がわかれば教えてほしい。

(事務局)

令和6年度の在職者訓練の実績は日本人を含めて160人。令和4年頃からベトナム人などの外国人を対象とした訓練も実施している。当初から計画しているレディメイド訓練に加えて、企業のニーズを聞いて応えていくオーダーメイド訓練を行っている。令和7年度のオーダーメイド訓練は19コースを実施予定であり、そのほとんどが外国人(フィリピン・インドネシア・ベトナム)が対象である。受講者数は1コースあたり2人から10人ほど。訓練には通訳が入ることが多いため、スピードは日本人対象の訓練の半分以下となっている。

(委員)

高等技術学校は、高校に行けなかった子どもたちや高校生・大学生あたりのモラトリアムな若い人をターゲットに、就業の能力をつけようというスタンスで頑張っているという話だったと思う。少子化・人口減少の現状で、そうした小さなターゲットでやっていくのは困難。公立高校や専門学校と同じ市場で勝負するのも厳しい。

切り口を変えて、例えば、県内企業の従業員を対象としたリスクリングをメインにした学校にするのがよいのではないかと。技術学校が生き残っていかないと、県は県内の製造業を切り離すのかという話になるので、将来を見据えて政策を検討してほしい。

(委員)

企業は今後 10 年、20 年、人が減っていく中で、やっていけるのかという危機感が非常にある。そのため、企業がお金を出して従業員を学校に行かせるなどの取り組みを始めたところもある。県内でも、普通科の高校から入社した社員を高等技術学校で勉強させて、その後 OJT で育てていった企業もあると聞いた。やはり高等技術学校は存在としてあってほしいし、今後増えていくであろう外国人材の教育の場としても重宝している。先ほど通訳の話もあったが、引き続き予算を取って対応してもらいたい。

企業を残すという視点からも高等技術学校をどう生かしていくのか検討し、取り組みしていただきたい。

(事務局)

入校者について高校に行けなかった子どもたちがターゲットという話があったが、高校新卒で入る人が一番多く、中でも工業系高校を卒業後、さらに技術をつけようと来る人も多い。中卒はオートボディ科（塑性加工科）だけ。

在職者訓練については、企業からのニーズで年々回数が増えている。令和 5 年度の訓練は 6 コース・31 名（うち外国人 3 コース 10 名）、令和 6 年度は 16 コース・56 名（うち外国人 10 コース・26 名）、令和 7 年度は外国人対象 12 コース予定。

通訳については、企業側で手配する場合もあるが、そうでない場合は県で手配している。

外国人材の育成については、外国人のリーダーとなる存在を育てたいという相談も受けしており、今後いろいろ話を聞きつつ組み立てていきたいと考えている。

(事務局)

中村校の在職者訓練について、令和 6 年度は 4 コース・8 名。訓練内容は、大工や左官の職人を育てる建築系の訓練。技能検定試験の事前対策講習や、企業のオーダーを受けた訓練を実施している。

外国人受講者は、令和 6 年度はいなかった。令和 7 年度は外国人技能実習生が 3 名（在留資格を取るために、技能検定試験を受検するのでその対策講習）。

中村校は建築系の職業訓練だが、全国的に職人の人数が減っている現状がある。大工・左官の人数のピークは 30～40 年前。大工はピーク時は 90 万人を超えていたが、現在は 30 万人を切っている。左官はピーク時は 22 万人いたが、現在は 6 万人を切っている。日本建築分野の職人を残していくためにも、本校の訓練科は存続していく必要があるが、入校者が減っている状況なので、課題は大きい。

(委員)

木造建築科について、親の目線で見たとときに、子どもが一生安心して食べていけるとい

イメージが少ないかもしれない。技能を身につけるのに2年ぐらいはかけなければいけないが、2年学んだとしても普通の収入が得られるのか疑問を持っているのではないか。リフォームや屋根・外壁の塗装などはニーズがあるので、幅広くいろいろ学べるというのが理想だと思う。

(事務局)

木造建築科の訓練生には、家族が大工なので自分も大工になりたいという子どもも何人かいる。

木造に限定していると仕事の範囲が狭いように思うものの、日本住宅の需要はあるし、耐震改修工事の需要もある。昨年、宿毛の方で地震があったので、耐震改修工事の需要は現時点では数年分ある。

左官については、型枠や基礎、瓦など多能工の技能も習得できるようカリキュラムの見直しをして学校で訓練している。

(委員)

自動車に限っての話だが、整備士が足りなくて、取り合いの状態が10年以上続いている。企業が高校生に奨学金を出し、学校に行ってもらってから採用するという取り組みを、ほとんどの会社でやっている。

外国人は企業実習制度で賄っている状態。日本語を半年くらい勉強して来るので、通訳がいないレベルになっている。日産の専門学校は6割くらい外国人。高知の人材不足を補うために、外国人を積極的に入れていく必要がある。

また、技術学校の就職率が低すぎると思う。人材不足なのに就職ができないのは問題。就職率100%というふうにならないと、親も学校に入れたくないと思うので、そのあたりを検討してほしい。

高知県の元気な未来創造戦略に関して、優秀な高校生が高知に残れるような仕組みを入れてほしい。私はニュービジネス協議会の委員長をしているが、新規事業の講演会をすると、高校生がたくさん来てくれる。高知で頑張りたいと活動している高校生がたくさんいるので、そういう子を援助できる取り組みを県でやってもらいたい。

(事務局)

就職率について、令和6年度の実績は98%、過去の年度も90%以上は就職に至っている。自動車整備科については、1年のときから内定をもらっており、今の2年生もすべて就職が決まっている。98%という数字については、1名だけ就職ができなかったためだが、本人の意向によるものである。学校には多様な生徒がおり、いろいろな特性を持っていたり、進路を変更したくなる子もいる。

(委員)

外国人材について、先ほど日産に入る外国人は日本語教育がしっかりされているという話だった。世の中の流れとして、外国人材の送り出し国で日本語教育をしっかりしてから入国してくるというケースが増えてきているが、送り出し国の日本語教育のレベルが教育機関によってかなり差があり、入国してからの受入れ事業者の苦労はまだ大きい。

(事務局)

高知県には5,400人くらいの外国人がいるが、技能実習生だけで5割、特定技能実習生を入れると7割くらいをしめる。

高等技術学校の在職者訓練についても、外国人向けのものが増えてくるだろう。まだまだ企業のニーズに十分応えられていないところもあるかもしれない。高等技術学校のこれからのあり方として、社会情勢の変化の中で、学校の役割や計画の方向性など、皆さんのご意見をいただきながら考えていきたい。

(委員)

中村校の3人は全員寮か。令和7年度の入校が3人で、令和6年度は8人ということは、木造建築科の人数は現在11人ということか。

(事務局)

入校者数は、令和6年度が8名、令和7年度が3名。令和6年度の寮生は10名だった。

(委員)

何年か前に、有志の委員で視察に行ったことがあるが、クーラーが無かった。寝るときも暑いということであり、審議会でもクーラーはさすがにつけてあげようということで、クーラーをつけた。

そういう住居関係は最低限整備していないと、来る人も来ないだろうと思う。こういうところは予算をかけるべき。

(事務局)

寮の建物は昭和45年建設で、非常に古い。最近、環境を良くしようということで、それまで2人部屋だったのを1人部屋に改修したため、寮の定員は13人になった。令和6年度は10人寮生がいた。令和7年度は6人寮生がいる。エアコンも数年前に導入して、環境面では多少良くなっている。

(委員)

高知で育ってきた人材に技術を学んでもらった上で仕事につなぐという目的で、技術学校があると思う。県外に出て行ってしまわずに、高知で働けるようにする必要がある。例えば、労働局と連携して、求人倍率の高い傾向のある産業分野に学びを追加してほしい。製造業を始め、建設、運輸、福祉、いろいろな産業で人手不足で、外国人材や女性・高齢者の活用で対応しているが、そういった人手不足の分野へ人材を送り込めるよう、労働局と情報共有しながら考えてほしい。

(事務局)

高知校はものづくり系の学科になっており、その他の介護、福祉、IT、宅建などの分野は民間の学校に委託している。国とも話しながら棲み分けを行っている。

(委員)

松木委員の言うように、入学希望者はイコールその業界への求職者ということだと思う。やりたいと思える仕事であり、労働条件も含めて良い業界・良い会社となっていないと、その仕事を学ぼうという人も増えない。業界がどういう形で労働職員を含めて良くしているかが課題だと思う。

第12期の計画を策定する上で、審議会での情報交換やニーズの把握をと思う。どういう業界でどういう会社がどれくらいの人数を求め、どういった経過があるなど。しかし、裏を返すと、人材を求めている業界というのは、人がいない、選ばれない業界になってしまっているとも言える。業界の現状が社会のニーズと合っていない部分もあると思うし、業界のニーズと求職者のニーズがずれている状況もあると思うが、業界の方の声としてどんな意見があるのか聞きたい。

(事務局)

今回新しい計画を作るにあたって、いろいろな業界からアンケートをとったりして、意見を聞きながら進めている。取りまとめができれば提示する予定。

(委員)

老朽化もあるし、高知校を訪問したときには、分かりにくい立地だった。特に女性の入校者を増やすためには、施設などのハード面の整備も重要なので、検討してほしい。

(事務局)

女性の入校者のための施設環境整備について、これまで男性中心だったので、校舎を改修してトイレの数を増やしたり、寮を改修して女性の休憩スペースを用意したりした。寮

は男性寮なので、女性の入寮はできない。女性休憩スペースにはベッドを置いたり、着替えスペースを確保したりしており、女性訓練生には鍵を渡して利用できるようにしている。

(委員)

高知福祉専門学校(介護・保育・社会福祉)でも入校生が増えなくて困っている。技術学校の取り組みの中で、高校訪問に110回も行っているというのがあった。高知福祉専門学校も高校訪問に行っているが、高校の先生が業界や仕事に興味を示してくれないことが多く、結果、生徒へもあまり伝わっていないというケースがネックになっている。

オープンキャンパスも行い、CMも打っている。先日のオープンキャンパスでは、ハーゲンダッツの食べ放題をやったので、高校生が60人くらい来てくれた。1回でも来てもらって、学校を見てもらい、こんな仕事もあるということを発信していく。

高校生の声を聞くと、テレビも見ないし、ラジオも聞かない。SNSについては、今時Xを見ている高校生はいないとのこと。私たちが、新しいと思ってやっていることが、もう今の高校生とは時代のずれがある。

私の家族は、高知校の自動車整備科でお世話になった。それまでは違う専門学校へ行って、就職もしていたが、本当は車が好きとカミングアウトして、学校でお世話になって、今は整備士をしている。そういった、本当はこれがしたかったという人たちに届く広報。高校訪問やテレビCMというところから外れて、高校生、本人たちに届く広報というものを新しく考えていくことが必要だと思う。

(事務局)

オープンキャンパスは高知校では2回やって40人ほどという状況で、年々減っている。ただ、オープンキャンパスに来てもらうと入校率が一番高いので、担当が県下をくまなく回っている。新卒以外の方も対象に、ハローワーク、役場、ホームセンター、スーパーなども回り、本人・家族問わずアプローチしている。

学校へは出前授業のような形で行っている。先日安芸高校が行事組んでおり、高知校、農業大学、専門学校などが参加した。生徒がそれぞれ関心のあるコースに来る形で、非常に関心を持ってくれた。このあたりは、今まで同様、地道にやっていく必要があると思う。

また、学校単位ではなく、個人で高知校の見学をしたいという方にも対応している。可能な限り受入れるよう、敷居を低くしている。

(事務局)

中村校についても、中学校や高校などを丹念に回って勧誘をしている。テレビCMやSNSなどいろんな形で学校のPRをしているが、実際に入校した訓練生に入校理由を聞くと、学校の先生の紹介が一番多い。そのため、中学校・高校を中心に回って、最近、進

路担当やクラス担当の先生以外（スクールソーシャルワーカー）にもできるだけお話をしている。中卒の子を集めるために、学力不足や家庭の経済的な事情などで進学できない子、特性を持った子どものうち、ものづくりに興味がある子を勧誘していくということに最近力を入れている。数年前からそういう取り組みを始めて、ここ1～2年は中学校から入ってきてくれる子どもが増えつつある。

（委員）

連合高知では、働くことで社会に参画し、安心して暮らせる社会を実現していこうということで活動している。

高等技術学校で学んで、社会に出て働きたいと思う方が、人数は減ってきたとしても依然いるので、設備や費用の面で課題はあるとしても、なんとか継続してもらいたい。

（事務局）

中村校長からの話もあったが、高知校でも特性のある子たちが来てくれているということでは同じような流れがある。そういう子は、熱心に、地道にずっとやってくれるというところもある。入校生が少ないということは悩みでもあるが、一方で特性を持つ子どもたちに手厚く対応できるため、ものづくりで勝負できる技術をつけていこうと考えている。

（以上）